

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 55 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2022 年 2 月 18 日 (金) 13 時 30 分～15 時 10 分

2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 柳原主査, 武部副主査, 脇幹事, 梅原, 坂下, 佐々木, 柏木, 中瀬, 平井, 小松原,
上田, 横田, 丸, 吉川 (岩崎代理), 竹腰, 山本 (16 名)

(欠席委員) なし (0 名)

(常時参加者) 満田, 岡田, 森本, 古田, 加藤 (船橋代理), 山田 (6 名)

(欠席常時参加者) 松本, 小野, 土田, 天澤 (4 名)

4. 配付資料

F9Ph2SC55-0 第 55 回分科会 議事次第

F9Ph2SC55-1 第 54 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録 (案)

F9Ph2SC55-2 L2 大型角型廃棄体製作検査標準案に対する LLW 廃棄体等製作・管理分科会コ
メント対応一覧表 (案)

F9Ph2SC55-3 浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XX

ー大型角型容器形態編ー一式 2022 年 2 月 18 日一部改訂 (案)

F9Ph2SC55-参考 1 L2 大型角型廃棄体の製作検査標準化の計画ー大型角型容器形態編ー

5. 議事

(1) 出席委員の確認

脇幹事から, 分科会成立に必要な委員数 (11 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 資料-1 前回議事録案の確認

脇幹事から, 事前確認をお願いしていた資料 1 第 54 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録
案が紹介され, 追加コメントは無く承認された。

(3) コメント対応一覧_L2 大型角型廃棄体製作検査標準について

柏木委員から, 資料 2 及び資料 3 を用いて, 大型角型廃棄体製作標準のコメント対応及び修正
状況について説明され, 次の質疑が行われた。

- ・ 附属書 G の G1.5 において, 資料 2 のコメント No. 9 の反映に一部未反映があるため, 全体を
通して反映します。
- ・ p. 94 において, K. 3.3 に 2 つ方法の箇条書きが記載されているが, 熔融処理と小型混練固化
は“…する方法”となっているため, もう一方も“…する方法”などとして記載を統一した
方がよい。
→拝承。
- ・ コメント No. 19 について, 修正案では“減衰による影響”と書かれているが, “減衰”は影響

の内容なので、“遮蔽による影響”や“遮蔽による減衰の影響”などの表現としたほうが分かりやすいのではないかと。

→拝承。

- ・ コメント No. 19 の青字箇所は、表面線量当量率という表現が、実際には 1cm 線量当量率を測定していますので、正確な表現ではないものの、表面線量当量率のままとしていることの理由を示したものです。最終的には青字の部分は削除しようと考えています。

→コメントはなく、承認された。

(4) 大型角型容器形態廃棄体の標準の解説案の検討について

資料 3 を用いて、柏木委員から大型角容器形態廃棄体の製作検査標準案のうち“解説”について説明され、次の質疑が行われた。

- ・ 解説表 1 左下の項目欄に、“今回の標準化の範囲”とあるが、“今回の”は不要ではないか。表のタイトルには“今回の”とあっても良いと考える。

→拝承。

- ・ 3. a) で“しかしながら”が 2 回続いているので、表現を工夫してはどうか。

→拝承。

- ・ 4. 2. 2 の固型化時の条件で、a), b) は条件が書かれているが、c) は資料の名前になっているので、ここの項目名は“・・・資料”など抽象的な名称に見直してはどうか。

→拝承。

- ・ 解説表 1 について、“製作実績など”とあるが、“計画中”ではなく“無し”でいいのではないかと。

→製作実績としては確かに“無し”ですが、標準化の範囲を示すために“製作実績など”として、今後製作予定のものを“計画中”と記載して今回の標準化対象を示したものです。が、記載の見直しを検討します。

→解説表 1 において、大型角型容器での使用済樹脂については“無し”と限定されたくない。ので、記載を工夫してもらいたい。

→注などで説明を追加するなどしてはどうか。

→注^{a)}、注^{b)}には非固型化廃棄物や液体状廃棄物の補足説明内容を記載していますが、内容を再検討します。

→表の“製作実績など”を“製作実績／計画”に直す等の見直しをしてもらいたい。

→拝承。

- ・ 4. 3. 1 において、放射能評価方法に関しては、他の標準を引用するため詳細を示していないとなっているが、大型の容器で遮蔽も考慮するため放射能濃度の評価は難しいように感じている。既に検討されているようなら問題ないが、この記載だとドラム缶と同様に評価できるように読めるが実態はどうなっているか。

→放射能の評価に関しては、ドラム缶に入れるのか大型角型容器に入れるのかの違いで廃棄物が変わりませんので、評価方法自体は同じです。しかしながら、非破壊外部測定についてはご指摘のとおり、寸法遮蔽等の影響の懸念があります。大型角型容器における評価方法は事業者で検討している状況ですが、ここで引用している学会標準“AESJ-SC-F022 :

2019”では、非破壊外部測定についての詳細は記載しておらず、評価のための製作管理項目（廃棄物の種類（密度）や収納量，容器条件）をこの標準で整理し，放射能評価方法については別の標準で整理すると考えています。

→承知した。

→非破壊外部測定の部分については，これまでも学会標準にまとめてきていませんので，その部分をまとめるといったニーズが事業者側であるようでしたら，学会として検討をしていく必要があるのではと考えます。

→ドラム缶標準においても，非破壊外部測定に必要な情報を整理するしか記載していません。廃棄物の種類（密度）及び収納量，遮蔽有無を含む容器の仕様の管理が必要としています。

→ドラム缶標準においても，非破壊測定については触れていない，かつ評価に必要な情報を管理することは記載されている，ということであれば現行どおりでよいのではないかと。

→放射能評価標準では，非破壊測定の箇所にモデル化などの記載はあるが，ドラム缶でも大型容器でも基本的に同じと考えられるので，現行記載で問題ないと考えられる。

（５）倫理教育

協幹事から，委員が事前に受講した倫理教育に対して寄せられた意見の紹介があった。

まだ受講していない委員がいれば，遅くとも２月中に倫理教育を受講し，協幹事へ回答するよう連絡があった。

6．次回の予定

- ・ 今回のコメントを受けて修正した標準一式を，１週間程度を目処に委員に送付する。委員は２週間程度で内容を確認し，コメントがあれば協幹事に連絡する。次回の分科会は，大きなコメントがあった場合のみ３月に行う。基本は，次年度の原子燃料サイクル専門部会での中間報告の前の４月に行うこととする。この内容を反映した参考１の修正版を配布する。
- ・ 標準委員会向け資料のフォーマットが，これまで２種類あったものが１種類に変わっている。専門部会資料作成時はその様式で作成する。

以 上